



幅広い年代から愛される「にんにくとべごまつり」

田子町 議会だより

2018



第97号

平成30年11月8日発行

青森県田子町議会

目次

にんにくとべごまつり	2
定例会／決算審査	4
一般質問	7
議員活動報告	10
研修会、現地視察	12
ひと言インタビュー	14

にくとべごまつり



キーランド特設会場にて開催されました。

「カラマリ」をはじめ、ステージでは田子神楽や様々な催し物等が開かれました。町制施行90周年と

「トンネル」で共に活動している鹿角市議員団、三戸郡下の町村議会議長をお迎えして、交流・親睦を



かわいい子どもたち

田子牛を堪能する瑞山市の皆様
ガーリックレディ♡♡♡

姉妹都市議会議員交流／瑞山市

田子町と、姉妹都市提携を結ぶ韓国瑞山市の1団が平成30年9月28日から10月1日にかけて来町されました。友好交流から始まり、ニンニクという特産物が繋いだ縁は両市町にとって有意義な時間と機会を与えてくれるものとなりました。

今回、瑞山市からは副市長をはじめ産業建設委員長、食品・ニンニク研究等、様々な機関から訪町していただき、当町の施設を視察研修し情報交換をいたしました。

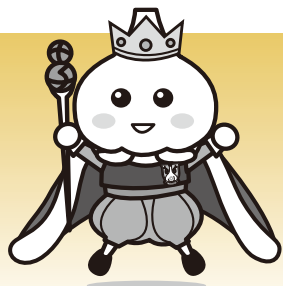
1日目は田子町中央公民館で行われた姉妹都市合同歓迎会に出席し、長旅の疲れも見せず友との再会を喜ぶかのような雰囲気の中、話の尽きない歓迎会となりました。

2日目は表敬訪問、役場駐車場横にある瑞山公園で記念撮影をし、田子町の一大イベントでもありますが、「第33回田子町にんにくとべごまつり」に参加していただきました。当市町の特産品でもあるニンニクを使用した様々なイベントを体験していただきました。また、大黒森や創遊村を見学し茅葺きの古民家について熱心に質問をし、りんご収穫・にんにく植え、タプコピアンプラザを視察研修しました。我々が韓国を訪問した際には盛大な歓迎をいただき感激しました。同じ気持ちになって頂きたいと思いを胸に田子町議長主催の歓

(砂子田康雄)

一致団結





第33回 田子町にんにくとべごまつり

平成30年9月29日と30日の2日間、第33回田子町にんにくとべごまつりが創遊村229ス。今年、アメリカのギルロイ市と姉妹都市提携30周年を記念して、パイロシェフによる名物料理ということもあり県内外からも大勢の観光客が訪れていました。

我々田子町議会では、議会交流のある韓国瑞山市、千葉多古町の議員・職員をはじめ、「世紀越え深めました。



千葉県多古町議員



ご来賓の皆様紹介

田子町と千葉県多古町は、町名が似ていることから平成24年度に交流が始まり、翌平成25年度からは、まつりの相互訪問交流、及び「道の駅多古」「田子町ガーリックセンター」での双方の商品販売など、産業観光面での交流が行われてきました。議会としても「ふるさと多古町あじさい祭」に御招待をいただき訪問、交流を続けて参りました。

今回は、第33回田子町にんにくとべごまつりに多古町議会から7名の訪問団が来町され、最初にタプコピアンプラザ、ガーリックセンター、創遊村と視察見学をしていただきました。各議員さんからは、大変自然が豊かな町だ。ケーブルテレビがあり、ガーリックセンターについても、日本一のにんにくの町ということ、それにふさわしい施設で、にんにくの加工品がたくさん陳列されていた。特にケーブルテレビの使用について関心を持ち、町の出来事、情報、議会の一一般質問等も放映されていて、議会議員の仕事は伝わりにくい面が少なからずあることから、これからの市町村議会にとって必要だと感じ、とてもすばらしいとのこと。また、にんにくの町として町独自の種子「美六姫」の開発、農家が一番懸念している、にんにくの連作障害等についても、地元の大学に委託しな

多古町議会交流



タプコピアンプラザを視察

がら取り組んでいることに感謝していただきました。互いの良さを学び今後に役立てると共にこれからも交流を深めていきたいと思えます。

(日沢一雄)

平成29年度決算を認定

第3回定例会 あつまし

平成30年第3回定例会が9月4日(火)から9月11日(火)までの8日間の会期で開催されました。

4日には諸般の報告、議案の上程・説明がされました。5日の一般質問には、3名の議員が登壇し多岐にわたり活発な議論が交わされました。

6日から11日は決算特別委員会が開催され、決算の認定が行われました。

同日、議案の審議、人権擁護委員の推薦議員派遣の件、所管事務調査の承認が行われました。

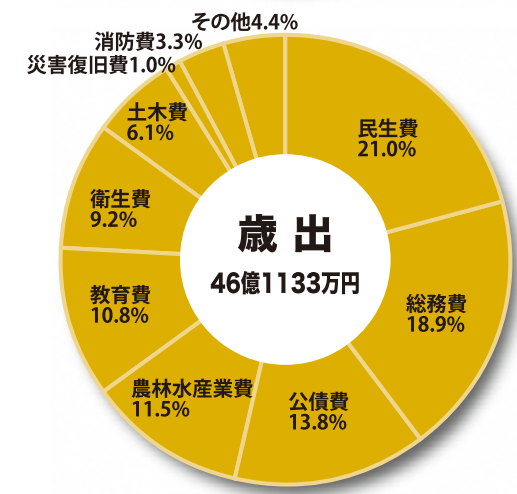
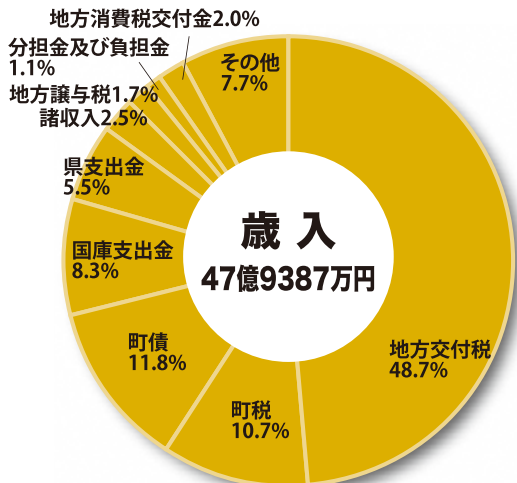
平成29年度一般会計歳入歳出決算の内訳

◎歳入

款	平成29年度	
	決算額	構成比
地方交付税	2,277,130	48.7 %
町税	501,530	10.7 %
町債	556,000	11.8 %
国庫支出金	390,410	8.3 %
県支出金	259,120	5.5 %
諸収入	118,740	2.5 %
地方譲与税	81,880	1.7 %
分担金及び負担金	53,350	1.1 %
地方消費税交付金	93,660	2.0 %
その他	362,050	7.7 %
合計	4,693,870	100.0 %

◎歳出

款	平成29年度	
	決算額	構成比
民生費	969,992	21.0 %
総務費	873,655	18.9 %
公債費	635,481	13.8 %
農林水産業費	528,913	11.5 %
教育費	498,788	10.8 %
衛生費	424,711	9.2 %
土木費	279,349	6.1 %
災害復旧費	48,108	1.0 %
消防費	153,129	3.3 %
その他	199,207	4.4 %
合計	4,611,333	100.0 %



決算審査意見書 (要旨)

一般会計及び特別会計とも、予算の執行については、効率的かつ適正な執行が行われていることを確認し、事業の執行についてもおおむね良好に進捗しており成果が認められました。

収入未済額においては、国民健康保険税(前年度比2675千円増)は増加傾向にあるものの、町税(前年度比1468千円減)、保育園等利用者負担金(前年度比1226千円減)、町営住宅使用料(前年度比4974千円減)は、減少傾向にあります。依然として収入未済額は大きな金額となっており、滞納整理の推進に努め、より一層の努力が必要と思われます。

歳出面についてはありますが、交付税等の減少が進むなか年々厳しさが増す昨今でありますので、健全かつ着実な財政運営を図るべく、歳出の抑制に努めなければならぬものと思われまます。よって、本町がおかれている現状を認識し、職責上の自覚を持ってこれに望み、行政上の効果を高めるよう努力していただきたい。特別会計に係わる事業運営にあたっては、田子町国民健康保険、介護保険事業勘定、診療所・老健施設事業に係る経費が増加の傾向にあり、一般会計からの繰出金依存度を軽減するためにも、努力されることを望みます。

田子町監査委員

高沢 靖直
日沢 一雄

平成29年度決算審査特別委員会

町の決算を審査

9月6日から11日までの決算特別委員会では、委員長に宇藤大介議員、副委員長に砂子田康雄議員が選任され、議員全員が委員となり、平成29年度決算について審査を行いました。

予算が適正に執行されたかを審査するとともに、行政効果や経済効果を測定し、住民に代わって評価します。ここでは主な質疑を要約して掲載します。

歳入

問 澤口勝委員

保育園保育料の収入未済額について見通しは。

答 堀田住民課長

99世帯中10世帯の未済で67万1千円となっており、回収できる見込みです。

歳出

問 尾形憲男委員

旧上郷中学校の維持管理委託とあるが、今後の活用はどう考えているのか。

答 福田総務課長

再利用できるかを内部でも検討しているが、建物の老朽化に伴い耐震対策や施設の修

繕に費用がかかることから、解体も含め慎重に協議していきたい。

問 尾形憲男委員

地域おこし協力隊について、現状はどうなっているのか。

答 坂下政策推進課長

昨年度までは3名の方が着任しました。30年度に向けて農業振興と移住コーディネートターの募集をしたが、応募は無し。30年度も同条件で募集したが、現在、応募者はおりません。

問 蹴場清人委員

若者定住について、不用額が出ているが、重要な政策だと思ふ。もっとPRが必要なのではないか。

答 堀田住民課長

通勤支援の申請者が想定していたよりも多く、その後も増える事を見越し増額したが

思ったほど伸びず、申請者が少なかった事と、若者定住移住就労者促進奨励金の対象が、田子町に移住後3年目が基準で対象者がいなくなった事が不用額の大きな要因です。

答 山本町長

この政策は当町にとって重要なもの一つで、通勤支援については用意していたよりも申請者が多く、増額していただいたが、その後の申請者が少なかった。しかし、そこで終わりにするのはなく得られたデータを活用し若者が何を不便に思い、何を必要としているかを分析し今後の住みよい田子町に役立たいと思えます。ただ、支援策を知らなかったという事は、あつてはならない事ですので担当課と共に見える政策を目指していきたいと思っております。

問 尾形憲男委員

三戸地区環境整備事務組合の負担金について、今回、黄色いコンテナを使用しリサイクルを促進するが、処理量が減ると負担金も減る仕組みだが、今後のゴミの削減についてどう取り組むのか。

答 堀田住民課長

今年の10月からガラス瓶の資源化に取り組んでいくが、以前は店に売れる物をストックヤードで回収しているが、それ以外の物を町で回収しリサイクルすることで、燃えないゴミの量が減ることで負担金も減り、リサイクル率も高まっていくと考えている。

問 沢口博二委員

かつて石亀や野面からも土偶や遺跡が出ていて、弘前大学等が研究の為に収集をしていったと思うが、それ

を田子町に戻してもらい展示するなど考えた事はあるか。

答 高岸教育課長

昔はいくつかの大学が調査に訪れたと聞いておりますが、最近では、発掘物に関して活動はおこなっておりませんが、これから展示や活動も含めて大学と連絡をとり検討して行きたいと思えます。

問 尾形憲男委員

特別支援教育支援員を2名ずつ配置しているが適正か。

答 高岸教育課長

人数に比例すると差はあるが、子ども達の様子を伺いながら、教諭の授業のあり方、子ども達の支援という観点からも不足だという認識は無い状況です。

審議結果

9月定例会では、補正予算等7件の議案と1件の報告が提出され審議しました。結果を一覧で掲載します。

議案番号	件名と主な内容	議決結果
報告第4号	専決処分した事件の承認について（平成30年度田子町一般会計補正予算（第3号）について）	原案承認 (賛9・否0)
議案第48号	平成30年度田子町一般会計補正予算（第4号）について	原案可決 (賛9・否0)
議案第49号	平成30年度田子町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第2号）について	原案可決 (賛9・否0)
議案第50号	平成30年度田子町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について	原案可決 (賛9・否0)
議案第51号	平成30年度田子町介護保険事業勘定特別会計補正予算（第2号）について	原案可決 (賛9・否0)
議案第52号	平成30年度田子町水道事業特別会計補正予算（第1号）について	原案可決 (賛9・否0)
議案第53号	平成30年度田子町一般会計補正予算（第5号）について	原案可決 (賛8・否0)
認定第1号	平成29年度田子町各会計歳入歳出の認定について	認定可決 (賛8・否0)

お詫びと訂正

平成30年8月23日発行「田子町議会だより第96号」の内容に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

○訂正内容

P7 一般質問

沢口議員「道の駅について／町長答弁1」に誤りがあります。

誤：全戸配布頭

正：全戸配布等

P14 編集後記

宇藤議員「編集後記」に誤りがあります。

誤：田子存続

誤：意見集約を

誤：明白でなくてはなりません

正：田子高校存続

正：意見集約、

正：明白でなくてはなりません

一般質問

町の未来



議員 沢口博二

清掃等をさせることはできないか？

答2

自然に親しませることは大切だとは思いますが、安全面への配慮から、現時点では難しいと考えている。

問3

回収ネットのようなものは設置できないのか？

答3

治水の観点から、設置は難しいと考えております。

河川のゴミ

問1

河川のゴミ対策はどうなっているか？

答1

県管理、町管理の河川共にゴミの撤去作業は、特に実施していません。河川愛護団体、建設業協会が、年一回、草刈り、清掃を行っています。

問2

環境学習の一環として、小・中学生に河川

と東北電力、NTTとの間で協議ということですが、断線のおそれがある場合には、情報を把握し、対応しております。

問2

東北電力等と話し合う「機会」というものはあるか？

答2

町として、具体的な協議の場は、特に設けていないが、今後、お互いに情報を共有して参りたいと考えております。

問2

導入の判断に甘さがあったのではないか？

答2

第六次総合計画でも上げておりますが、土づくり推進と輪作体系の確立は、今後の農業の大きな鍵になっていると思います。耕畜連携を進めるためにも、導入の方向性は間違っていないと思っております。今後、啓蒙活動を図りながら、活用されるように取り組んで参ります。

電線・電話線の支障物

問1

山間部で、電線、電話線の支障物(樹木)のことで相談されるが、町はこのような地域をどの程度把握しているのか？

答1

基本的には、所有者

上郷地区のたい肥散布車

問1

今だ稼働していないようだが、その理由は何か？

答1

町では、鶏糞等の成分分析を行いながら、たい肥としての啓蒙を

答1

総務省により、情報通信技術(ICT)の普及を図るため、児童が学べる地域の受け皿づくりのため、「地域ICTクラブ」の事業公募を行っており、当該団体が、東北地方で唯一採択を受けたものと認識しております。今後は、塾の動きについて情報共有を進めて参りたいと考えております。

問2

A I、パソコン教育の今後についてどのように考えているか？

答2

平成29年3月に告示された新学習指導要領では、各学校において、ICTの環境を整えることが指摘されております。まず、指導者の教育として教員研修、校内研修から始めなければならぬと考えております。

問3

将来のことを考え、積極的にA Iを取り上げるべきと思うが、いかがか？

答3

町では、文部科学省の「ICT活用教育アドバイザー派遣事業」に応募し、宇都宮大学教授を講師に迎え、ICTの環境整備状況、課題等を見て頂きました。ICT教育を進めなければということ痛感しておりますが、まだまだ、検討・協議が必要であると考えております。

三戸地方未来塾

問1

この動向について、把握している情報は何か？



河川の状況

町の財産



欠端則夫 議員

若者の健康診断

問1

若者の健康診断に対する町の考えと助成について伺いたい。

答1

健康診断は大きく分けて2種類あり、社会保険等に加入されている方を対象に、事業所側で実施している健診と、国民健康保険加入者を対象として市町村が実施している健診とがございます。町で実施している特定健診は、10月から12月までの平日に、せせらぎの郷や

上郷公民館などを会場として総合検診を行っております。一般的に対象者は40歳以上と言われているますが、田子町では40歳未満の方も受診対象としており1人当たり8千円の経費がかかりますが、田子町の健診では自己負担額を千円にしております。がん検診は40歳以上の方のみが対象となっております。

問2

自分が体調不良に気がついたら、いつでも診断をできるような制度はないか。

答2

医療機関などに出向いて直接受診する検診への対応については、八戸にある健診センターを利用しての子宮がん・乳がん検診についてのみ、年間を通して受診者の都合に合わせて日程で受けることが出来るようになっております。今後、その他のがん検診についても、委託することを検討して参りたい。また、若い世代に対しての呼びかけとして、毎年40歳と41歳の全町民に対して、大腸がん検査キットを郵送し、無料で受診できるような取り組みも行っております。地域包括支援課では困りごとや悩みごとに対して、気軽に相談していただけるよう、窓口を開設しております。病気やケガについての相談や、医療機関を利用するに当たっての事前相談など気軽にご相談いただければと思います。

非常食

問1

町で用意していた水を他町へ支援に送ったと聞いた。

答1

愛媛県上島町より飲料水の支援要請があり、備蓄品から飲料水「2リットルペットボトル120本、500ミリリットルペットボトル240本」を支援いたしました。7月11日に被災地へ発送した後、翌12日に発注を行い、8月10日に納品となっております。

問2

食料も町で用意しているはずだが賞味期限は守られているか。

答2

飲料水以外の食料品については、アルファ米が500食分、フリーズドライビスケット864箱を備蓄しております。アルファ米が約5年保存で平成34年5月までと平成35年7月までの2種類となっております。フリーズドライビスケットは約7年保存で平成36年4月までの賞味期限となっております。

賞味期限となっております。また、賞味期限になったものや近いものはどうしているか。

問3

賞味期限になったものや近いものはどうしているか。

答3

以前に、賞味期限が間近になった飲料水がありました。その際は、町の防災訓練を実施した時に参加者へ提供したり、会場となった小学校へ提供しております。

問2

放棄地から畑や田へと戻った面積はあるか。

答2

過去の耕作放棄地の比較としましては、平成27年度では約151haありましたが、平成29年度では約140haとなり、約11haが解消されている。

問3

悪条件での作物を探せないか。

答3

昨年度から農業振興地域整備計画の見直しに着手し、町と農業委員会が連携して現状把握の調査をしながら、農地の状態や生産者の意向を踏まえた上で、悪条件下での作物の選定についても調査研究して参りたいと考えています。

耕作放棄地

問1

田や畑に人手が足りず、また日照りや水道路等の条件が悪く、耕作放棄地となっているところがある。町ではどれくらいあるか。

答1

平成29年度末で約140haが耕作放棄地となっております。

町の教育



宇藤 大介 議員

田子高校の魅力化

問1

今日まで町・教育委員
会・各学校PTA・

高校後援会・教育振興
会と数多の関係機関が

田子高校の存続に向け
た多くの取り組みや施

策を展開し数々の熟考
を重ねその力の粋を注

いできた。

しかしながら依然と
してその光明が見い出

せず、子ども達が進路
を決めなければならな

い時期が到来している。
県立高校であるが故、
町による数々の支援策

は講ずることは出来て
も抜本的な運営や、永
続に向けた部分に具体
的なメスが入らないこ
の現状をどう打開して
いくのか。

魅力化の洗い出しに
は多種多様なアイディ
アが寄せられておるこ
とから、その具体化は
経費はかかるであろう
が容易であると考えら
れる。

あらためて地域の皆で
ある田子高校の永続を
見据えた火急な対応を
求めるが町長の見解は。

答1

根底にあるのは田子
に生まれた子ども達に
対して教育の機会・学

ぶ機会を失ってはなら
ないということ。もう

一つは、田子に生まれ
育ち地域のことをしっ

かりと理解し、地域を
愛することが出来るそ

のような思いを育むた
めには多くの田子町の

大人と様々なコミュニ
ケーションを行いなが

ら伝承されるものを伝
承し、そして地域に思
いを馳せることが出来
るような視点を持つこ
とが大事だと考える。

今の親御さん達の判

断は、子ども達の選択
を親がしっかりと認め、
応援できる環境下での
選択であろうか、自ら
のサラリーで賄い得る
選択であろうかという
こと。無理のない教育

と、より質の高い教育
を得るためには高校時
代の経費を出来るだけ
抑え、更にその先の大
学等へ進学してもらう
選択もある。

田子高校は町にとつ
て「地域の力」となっ

ていることや、子ども
達が安心して学び巣立

っていく拠点となるよ
う、引き続き支援の輪

を拡充させてまいりた
い。そのうえで、まず

は募集定員の二分の一
以上の確保に向けての

活動を鋭意精力的に展



田子高校郷土芸能活動

開しているところであ
る。

問2

教育とは大きな投資
であると考えられる。こ

れからの世を担い、紡い
でいく子ども達へ今の

我々が出来ることをり
ミットまで手当・応援

し、その恩恵に預かつ
た子ども達が次世代へ

その輪を拡充させてい
く。このサイクルの起

点を大人の世代が構築
しなければならぬ。こ
れが大人の世代が構築
しなければならぬ。こ
れが大人の世代が構築
しなければならぬ。

扞肢を厳然と守り抜く
ための町の最高責任者
としての田子高校の魅
力化・存続に寄せる思
いは。

答2

町の中で学ぶことの
できる最高の教育は田
子高校の高等教育まで
である。これを思うと
田子高校を残していき
たいと多くの方々がそ
う思っているに違いな
い。

結果的に田子高校を
存続させることが第一
優先であるかの議論に
はなるが、考えなければ
ならないのは子ども
達が田子町に住みなが
らより良い教育を受け
て、さらに高等な教育
をうけられる仕組みを
町として担保すること。

中学生から他の地域へ
通う子どももある今日、
優秀な子ども達の育成
と学び、そして無理の
ない親御さん達の対応
を願う、学びの場の充



田子高校郷土芸能活動

実と保全に取り組んで
まいりたい。

※田子高校入学に関する、
田子町からの支援策詳細に
ついては、田子町中央公民
館・教育課までお問い合わせ
下さい。

議員活動報告

議員はそれぞれ、議会運営（議会広報編集）委員会、総務・文教常任委員会、産業・民生常任委員会に5人ずつ所属しています。また、特別委員会の活動や、町政に活かすため研修会への参加、先進地視察を行っています。

協議

○実施日8月22日

議長の諮問を受け、9月4日開会の平成30年田子町議会第3回定例会の議事日程について協議を行った。

議会広報編集委員会

○実施日8月22日

議会だより97号の発行に向け、各自の担当やレイアウトについて話し合った。

○実施日10月10日

町村議会広報研修会（東京都）に委員3名が出席し、広報作成について研修を受けた。

総務・文教常任委員会

【構成委員】 日沢一雄委員長 宇藤大介副委員長
梶本義見委員 砂子田康雄委員 澤口勝委員

国際交流事業について

事務事業調査

○実施日 8月8日

所管に係る事務事業の調査を行った。

【教育課】

清水頭小学校体育館
屋根回収・上郷公民館
空調機設備整備・給食
センター屋根外壁塗装
改修工事の状況報告と、
今後の日程報告があり、
今立田子高校存続に係
る取り組みについてと、
今後の展開について協
議をしているとのこと。

【住民課】

にんにくの収穫時期
となり、にんにく盗難
防止の実施状況につい
て報告があり、引き続
き強化して行きたいと
のこと。

【総務課】
大阪で発生した地震
により児童が犠牲とな
った事案があった事か
ら、当町で点検をし危
険と判断されたものは
撤去すること。

【税務課】

当町の税の徴収状況
について報告がありま
した。ふるさと納税で
は対前年度比の状況を
鑑み、件数増に向け協
議していくとのこと。

事務事業調査

○実施日 8月9日

所管に係る事務事業
の調査を行った。

【診療所・老健施設】

診療所・老健・訪問
看護事業実績について
報告があり、収支は伸
びているが、看護師、
介護員の確保が急務と
なっているとのこと。

【建設課】

トンネル具現化へ向
け、今年度、現状把握
のための調査を県が発
注予定とのこと。調査
着手によりこれからの
状況に一層の期待を込
め取り組んでいく。

産業・民生常任委員会

【構成委員】 尾形憲男委員長 宮村尚哉副委員長
蹴揚清人委員 沢口博二委員 欠端則夫委員

世紀越えトンネルへ

【住民課】

田子保育園移転新築
工事の状況報告があり、
老人福祉センターの熱
中症対策のため施設内
の通気を良くすること
を目的とした網戸設置
を進めるとのこと。

【産業振興課】

美六姫の種子、圃場
収穫の状況について報
告があり、これからの
取り組みや改善など協
議を進めていくとのこ
と。

【地域包括支援課】
若年健診の結果につ
いて報告がありました。
肥満率は全国・県の平
均より非常に高いが、
高度肥満割合は減少し
ているとのこと。また、
歯周疾患健診事業につ
いては、県歯科医師会
からの提言もあり廃止
を検討。町は引き続き
組んで行くとのこと。

伝わる議会とは？

議会運営委員会（議会広報編集委員会）

【構成委員】 宮村尚哉委員長 宇藤大介副委員長
日沢一雄委員 砂子田康雄委員 澤口勝委員

田子町姉妹都市連携端山市訪問

平成30年7月11日～15日まで、韓国・端山市へ訪問してきました。当町と同じ特産物が縁で始まった交流を大切に、視察研修してきました。

姉妹都市交流

7月11日から15日まで端山市訪問研修に参加してきました。田子町とのこれまでのいきさは、韓国有数のにんにくの産地として知られ、「にんにくならソサン」と言われるほど高品質で人気が高く、端山にんにくとしてブランド化され広く親しまれていることから、平成2年にお互いのお祭りに訪問し有効交流が始まり、互いの特産品である「にんにく」がとりもつ縁で平成24年に姉妹提携が結ばれました。

最初に端山市農業技術センターを見学。農家戸数1万2229戸で、総戸数の16・6%にあたり主な作物としては韓国第4位の米、収穫量は約10万tにのぼり、にんにくにいたっては全国の2・3%

にんにく等に取り組んでいた。また連作障害対策として、有用微生物と培養施設が整備され、桿菌、乳酸菌、酵母菌、光合成菌などが農家に提供されていた。

温帯気候帯に位置し穏やかな気候で育てられる「端山にんにく」は、日本の寒冷地に多く見られる、にんにくのように6片であることとにびつくりしました。

足を止める方も多く、にんにくの魅力が感じられました。オープニングセレモニーでは、田子町からの訪問団も紹介され、熱烈な歓迎を受け市民レベルでも姉妹都市交流の認識が高まっている事を感じて参りました。

シエアを誇り、生姜27%、高麗人参2・5%、畜産については韓牛1千戸の農家で3万頭、また農機具の賃貸事業を4カ所で開設し79種、1019台が貸し出されていて農機具の農家負担軽減がなされていた。

センターは2016年の竣工で、50種、61台の機械装備による真空低温濃縮機、気流式粉砕機など、加工品目として生姜糖エキス、蜂蜜生姜茶ジャム、搾汁ジュース、粉末類など多岐にわたり、また、組織培養による種子の改良が行われ、種いも、さつまいも、端山六片

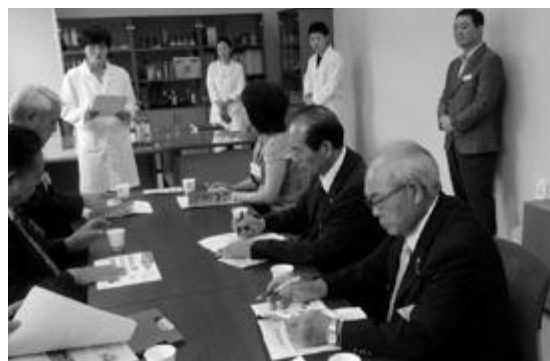
6月に開催される「端山6片にんにく祭」では、古城跡のような野外の広い会場に、にんにくを使った様々な料理を味わうことが出来、多くの観光客が訪れていました。にんにくを中心とする農作物、加工品等を販売するお店がたくさん並び、会場全体が賑やかな雰囲気になっていました。

強精および抗がんなど優れた効能がある健康食品と言われています。そして3年連続ブランド大賞受賞して

疲勞予防・強壯・強精および抗がんなど優れた効能がある健康食品と言われています。そして3年連続ブランド大賞受賞して

今回は、端山6片にんにく祭りの招待を受

今回は、端山6片にんにく祭りの招待を受



端山市農業技術センター

端山6片にんにく祭

6月に開催される「端山6片にんにく祭」では、古城跡のような野外の広い会場に、にんにくを使った様々な料理を味わうことが出来、多くの観光客が訪れていました。にんにくを中心とする農作物、加工品等を販売するお店がたくさん並び、会場全体が賑やかな雰囲気になっていました。

にんにくは乾燥はしてはいるものの、根・茎・葉のついたままで店頭に山積みされ視覚からも味が伝わり



端山6片にんにく祭

ギルロイ市訪問

姉妹都市 提携30周年

山本町長を団長とし、町民合わせて19名にて米国、カリフォルニア州・ギルロイを訪問。7月25日田子町を出発、大館能代空港、羽田空港経由サンフランシスコ空港着。その足で在サンフランシスコ日本国総領事館訪問。永吉昭一首席領事、青野副領事から領事館の役割、歴史の説明を受けた。その中で青森県弘前市出身の珍田捨巳氏が1890年に領事として赴任し、その後、初代外務次官、のちに在米日本大使等を歴任されていることを紹介された。

着。ホストファミリーと対面し各々の宿泊先に分かれた。私のホストファミリーは、市議会議員のMARIE P. BLANKLEYさんでした。国際交流協会の佐藤恵子さんと同宿でしたので言葉の問題はなかったです。翌日以降は、市長表敬訪問。警察署見学。ウエルカムパーティー、ガリーックフェスティバル、さよならパーティーと各行事に参加した。今回の訪問によって、領事館での説明を聞き、米国と日本の関係を直接ホームステイを通じ体験できた。又日本側（田子）の受入れ体制が今後の姉妹都市の友好関係継続の課題である。何よりお互いの笑顔がいつぱいの訪問であった。

(尾形憲男)

敬老会

元気!!

9月14日、田子町農業者トレーニングセンターにて「平成30年度田子町敬老会」が盛大に行われ、来賓として参加して参りました。

者安全・安心キャラバン隊による寸劇などが行われ楽しいひとときを過ごしました。

9月14日、田子町農業者トレーニングセンターにて「平成30年度田子町敬老会」が盛大に行われ、来賓として参加して参りました。本年度の参加対象者は1332人で、そのうち469人に参加していただき、会場内は参加者と支援スタッフで満杯でした。

田子町も町民人口の約4分の1弱が75歳以上の高齢化になっております。全国的に少子高齢化になってきている中で我々は改めて、どうしたら住みよいまちづくりが出来るのかを考えさせられる一日となりました。

式典が始まり1000

歳到達2名、夫婦共に米寿5組、米寿を迎えられた方々の表彰があり、なんと今年は47名の方々が米寿対象者で驚きました。その後、祝宴では、田子幼稚園、田子、上郷保育園の園児によるアトラクション、文化協会による民謡や踊りの披露、高齢



おめでとうございます!!

(宮村尚哉)

町村議会研修会

政治経済

酔した一日となりました。記者としての長年にわたる取材経験を元に、今後の日本の政治、経済のゆくえについてポイントをおさえたわかりやすい解説は、我々議会人も日々勉強を重ね、住民の方々へわかりやすく丁寧な対応を心掛けねばとの思いを新たに帰路に就きました。

去る7月12日、青森市リンクモア平安閣市民ホールにおいて町村議会議員研修会が開催されました。講師には読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏が招かれました。氏は秋田県出身ということで地方行政のあり方や、自身の生い立ちに照らした今日までの政治や議員のあり方について舌

峰鋭く、飽きのこない軽妙な語りで政治の今を分析されておられました。TVの「ウェークアップ!」等々で見せる姿以上の勇気、その威風堂々たる切り口の鮮やかさに感銘し、心

あり方について舌峰鋭く、飽きのこない軽妙な語りで政治の今を分析されておられました。TVの「ウェークアップ!」等々で見せる姿以上の勇気、その威風堂々たる切り口の鮮やかさに感銘し、心



橋本五郎氏の力強い言葉

八戸能代間トンネル要望

早期着工へ

平成30年11月4日、私たちは青森県庁で、熊谷県議会議長に世紀越えトンネルの早期着工への協力と理解を求め、面会をした。

とても多いとの説明に、その話を道路担当の当局者にも伝えた方が良いとのアドバイスをいただいたので、その後の県当局者へも、同様の話を伝えた。少しではあるが調査費がついたとも聞き、とても有意義だった。

(欠端則夫)

三戸郡選出の議員から、このトンネルの件での質問があり、道路の延長は秋田

県側が長く、青森県側は短い等の情報や、早期着工の要望があることはわかっている」との言葉があり、たいへんうれしかった。そして、道路の事故状況について私の認識では青森県側が



八戸能代間地域連携協議会

町村議会広報研修会

「伝える」とは

本年10月10日、議会活動に対する住民の関心と理解を深めることが求められている状況に鑑み、議会広報の更なる充実と発展に資することを目的に開催された「町村議会広報研修会」に参加してまいりました。東京都で行われた本研修会には、全国205の町村議会が参加し、青森県からは我が町を含め5町がエントリーし、「読み手に伝わる文章の書き方」・「デザイン力で、もっと伝わる議会広報誌に」と題した2部構成の講話を拝聴いたしました。

わかれた本研修会には、全国205の町村議会が参加し、青森県からは我が町を含め5町がエントリーし、「読み手に伝わる文章の書き方」・「デザイン力で、もっと伝わる議会広報誌に」と題した2部構成の講話を拝聴いたしました。



伝える力を学ぶ

ケーブルTV・広報たつこと町民皆様への情報開示の媒体がある我が町で、議会広報をどれだけ皆様に親しみ・馴染み・関心を持つてご愛読いただるか、今後のより分かり易い誌面作りの参考となる貴重な講演となりました。

(宇藤大介)

正副議長研修会

議会改革

9月14日、八戸市きざん八戸にて三戸郡町村議会議長会主催の研修会に参加して参りました。研修講演は「今、なぜ議会改革が必要か」講師には青森中央学院大学准教授佐藤淳

対話・コミュニケーションの場の確保など紹介して頂きました。参考事例として六戸町議会と鱈ヶ沢町議会の取り組みを紹介していただきました。

先生で、協働のまちづくり研究アドバイザーなど数多くの公共団体のまちづくりに携わっております。

議会改革の第2ステージとして「政策サイクル」地域課題を解決する議会を目指す。意見交換会を元に議員間討議をして政策提言が出来る議会を目指します。

講演の内容としましては、現段階の地方議会の議会・議員の現状を分析・把握でした。市民・町民のイメージは「議会・議員は何をやっているのか分からない」などでした。それらのイメージを払拭するために、積極的な情報発信、町民との

私も一議員として町政策の形骸化、思いつきだけでの評価をしないよう議員間で討論し提言していかなくてはならないと再度認識した研修でした。

(宮村尚哉)

町の方から ひと言インタビュー

今回は、今年のガーリックレディへインタビューしました。これまでのイベントや交流に参加してみて感じたことや、レディだから思うことなど今後の目標を語ってくれました。



ガーリックレディ
山下真由子 さん (18)

おめでとう~!!



①ガーリックレディになろうと思ったきっかけは？

- ・2015年度のガーリックレディに憧れた。
- ・田子町のPRを積極的にしたいと思った。
- ・田子町のために少しでも役に立ちたいと思った。
- ・アメリカのギルロイ市に行き、国際交流について学びたいと思った。

②ガーリックレディになってみての感想は？

- ・レディになってみなければ分からない経験をすることができ、たくさん学ぶ事ができました。
- ・田子町について今までより深く知り、考える事ができました。
- ・イベントに積極的に参加し、とても楽しみながらPR活動することができました。

③これからやってみたいことはありますか？

- ・もっと田子町の魅力を自分の言葉で発信したい。
- ・美六姫を栽培し、品評会で最優秀賞をとりたい。
- ・田子町に少しでも貢献したい。

編集後記

今回はボランティア活動について書いてみたいと思います。日本列島は今、北海道から九州まで自然災害等が発生し、ボランティアの人達が居なければ回復できないような現状になっていると思います。7月に千葉県多古町との交流に参加（あじさい祭）をさせていただきました。お祭りのひとつに唐竹のジェットコースターを作りお祭りを盛り上げておりました。すべり降りたあとはボランティアの人達（高校生）がすごを頂上まで人力で汗ダクになりながら引き上げていたのが印象的でした。大変な仕事だと痛感させられました。田子高校も入学者数の減少となった場合は、にんにくとべごまつりのボランティア活動が懸念されます。田子高校への入学に関しましては行政も多くの支援策を準備して居りますので、生徒、父兄の方々のご協力をお願いしたいものです。

ねばこまる 田子高校

砂子田康雄

発行・編集責任者

議長 澤口 勝

議会広報編集委員会 (第97号)

委員長 宮村 尚哉
副委員長 宇藤 大介
委員 砂子田康雄

尾形 憲男
日沢 一雄
沢口 博二
欠端 則夫

執筆協力

山下真由子